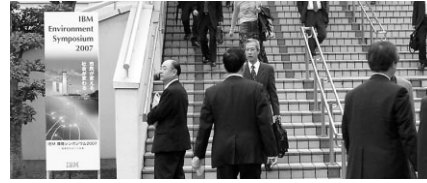


IBM 環境シンポジウム 2007 IBM BIG GREEN FORUM 2007



環境への配慮はIBMにとって重要な課題であり、あらゆる事業活動、製品およびサービスで環境リーダーシップを発揮することを目指しています。また、地域社会へも積極的に働き掛け、環境にかかわるイベントを行ってきました。「IBM 環境シンポジウム 2007」と「IBM BIG GREEN FORUM 2007」の二つのイベントをご紹介します。

8回目を迎えた IBM 環境シンポジウム

循環型社会をつくるためには、積極的に社外の取り組みと協働することが必要であるとIBMは考えています。その一環として、2000年に第1回のIBM 環境シンポジウムを東京で開催したのに続き、全国各地で毎年開催し、今回は8回目を迎えました。

IBM 環境シンポジウム 2007「市民が変える、社会が変わる - 循環型社会実現への協働 -」は、2007年11月1日(木)に大阪・高槻市の高槻現代劇場で開催されました。当日は雨が降ったり止んだりのあいにくの天気でしたが、これまでで最多の参加者が詰めかけ、講演や発表に熱心に聞き入っていました。

オープニング・スピーチでは、日本アイ・ピー・エム株式会社(以下、日本IBM)取締役 副社長 執行役員 金田 治がごあいさつしました。「商工業の発展と良好な自然環境や住環境の両立がとても大切になっている今日、大阪府は地球温暖化防止およびヒート・アイラン



金田 治

ド対策をはじめ、独自の森林保全への取り組みや、日本IBMも参加させていただいておりますアドプトフォレスト制度、そして家電リサイクルの大阪方式など、行政だけでなく、企業や市民が一体となって共同して取り組まれている場所です。

また、大阪府で3番目の森林面積を有する高槻市では、森林の持つ多様な機能というものを適切な方法で維持および発展させることに、組織的に取り組んでいられたいです。大阪府のアドプトフォレスト制度への日本IBMの参加は、ここ高槻市成合地区で、社員や家族、および地域の皆様と一緒に取り組まさせていただきます。

地球温暖化をはじめ、環境保全のための活動も、今や産官学すべての人々が協働して取り組むことが非常に重要な時代になっています。IBMは技術や製品を作り出すだけでなく、モデル、新しい方針、ソリューションというものを通じて環境問題の解決に今後とも取り組んでいきたいと思っております。この環境シンポジウムを出発点として、自治体の皆さん、地元の皆さん、および市民の皆さんとこれまで以上に協業し、イノベーションというものを作ってまいりたいと願っている次第です」

オープニング・スピーチに引き続いて、大阪府 副知事 三輪 和夫様、高槻市 市長 奥本 務様、そして建築家 安藤 忠雄様による講演が行われました。

一般の参加者にも分かりやすい セッション

午後からは、4会場に分かれて合計12のセッションが行われました。

「IBMの活動」のセッションでは、まずIBM ビジネスコンサルティングサービス株式会社の駒形 佳幸が



駒形 佳幸

「地球を守るためにIBMができること - IBMの環境への取り組み - 」と題し、IBMの環境ポリシーや環境 マネジメン

ト・システム、環境プログラム、CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)や環境経営に対する考え方、IBMのenergy & climateプログラムなどについてご紹介しました。最後は、「かけがえのない地球のために、IBMは皆様と一緒に環境を守っていききたいと思っております」という言葉で締めくくりました。

続いて、日本IBMの阪口 信貴による「ITにおけるエネルギー効率化と環境への取り組み」では、Project Big Green



阪口 信貴

の活動内容や具体的な事例をご紹介しました。セッションには、ふだんは最先端のIT(情報技術)にあまりなじみのない一般の方も参加されているように見受けられました。そこで、まずデータセンターとは何か、という分かりやすい説明から始まり、データセンターで今どのような問題が起きているのか。それに対してIBMのProject Big Greenとはどのような取り組みなのかについて、順を追ってご説明しました。データセンターのエネルギー効率化を実現するテクノ

ロジーを、施設・設備、システム・テクノロジー、システム管理などの面から、具体的な数値を挙げつつお話ししましたが、環境問題に高い関心を持つ参加者が多かったせいもあってか、専門的な内容が多かったにもかかわらず、最後まで興味を持って聞いていただけたようです。広く一般の方にProject Big Greenを知っていただく良い機会になったようです。

最後に、日本IBMグループの社員や家族が参加するECOマラソンの優秀活動発表が行われ、5組の発表がありました。一人一人が市民として地球温暖化防止活動などに参加し、社会に貢献することを目指したECOマラソンは、参加者が自分なりの活動内容を申告し、その結果をレポートするもので、展示会場でも紹介されました。

ほかの3会場のセッションでは、「金融機関の活動」「行政の活動」「環境活動の環」の分野で環境に対する多彩な取り組みが紹介され、熱心にメモを取る参加者の姿も多く見られました。

多数のお客様をお迎えして、Project Big Greenの具体的な取り組みを発表

IBM BIG GREEN FORUM 2007は、2007年11月29日(木)に日本IBM 箱崎事業所にて開催されました。

IBMはデータセンターにおけるエネルギー効率化を目指すProject Big Greenについて、2007年5月に全世界へ向けて発表しました。これを受け



て、日本における取り組みも含めたトータルな内容を初めてご紹介する場が、このIBM BIG GREEN FORUM 2007となりました。ご紹介の内容はデータセンターだけではなく、お客様企業のIT全般の効率化も含む広範で詳細なものです。

初めに、日本IBM 副社長執行役員 トッド・カートリーがごあいさつをいたしました。

「このイベントは、日本において、お客様にグリーン・データセンターを構築していただくための総合的



トッド・カートリー

なアプローチに焦点を当てたイベントとしては初めてのものです。本日は520人以上の皆様が参加していただくことになっています。これは、お客様がこの重要なテーマについて、いかに大きな関心を寄せていらっしゃるかということの表れだと思います。本日のセッションが皆様に実り多いものとなり、多くの情報を持って帰っていただけるものになることを願っています」

基調講演に引き続いて、日本IBM 専務執行役員 橋本 孝之による「地球環境への貢献と企業のイノベー



橋本 孝之

ションを目指して～Project Big Greenの取り組み～」で、その全体像が明らかにされました。「Project Big Greenは、お客様に対して、業種別ソリューションやエネルギー効率化のためのインフラ構築やご支援、IBMが行っている研究開発など、総力を結集して取り組むものです。環境への対応を、ぜひお客様の市場競争力の源泉にしてください。IBMは、お客様をいろいろな分野からご支援するとともに、IBM自身も地球環境への取り組



みをいっそう進めていきたいと思えます」

16にのぼるセッションで詳細にご紹介

午後からは、四つの分野で各4セッションずつ、合計16にのぼるセッションが開催されました。

「エネルギー効率化」では、「効率的なデータセンターを目指して」と題した4連続セッションが行われ、データセンターの現状分析から最新ソリューションのご紹介まで、系統立てたプレゼンテーションとなりました。

「統合・仮想化」ではお客様による事例のご紹介も含めて、関心の高いサーバーの仮想化による統合とエネルギー効率化の関係などについて、詳細な説明がありました。

「運用効率化」では、コスト削減とも密接に関係するITシステムの運用の効率化について、SOA(Service Oriented Architecture: サービス指向アーキテクチャー)やITIL® (Information Technology Infrastructure Library)、ストレージなど、さまざまな観点から検討されたソリューションが提示されました。

最後の「テクニカル」では、IBM System z™や POWER6™、BladeCenter®などの最新テクノロジーとエネルギー効率化について、よりテクニカルなテーマが取り上げられました。

各セッションとも、最後まで多くのお客様が熱心に聞き入り、環境問題に対する関心の高まりを反映した熱のこもったフォーラムとなりました。